

2023年度

科目名称	動物疾病学
授業コード	AC207
英語名称	Animal Disease
学期	2023年度前期
単位	2.0
担当教員	渡辺 隆之 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	(A) 社会的基礎能力の養成を行う。 本講義の前半では、イヌ・ネコを中心としたペット動物の期間別疾患・病因の理解を図る。後半は内科疾患・外科疾患を病理学的に講義する。最終的に時間があれば、エキゾチックペット動物や大動物の疾患を学ぶ。魚類の疾病についてもできる限り明らかにする。野生動物の人獣共通感染症についても講義できれば幸いである。
科目に関連する実務経験と授業への活用	獣医師として動物病院を開業していた経験をふまえ、実際に現場である動物病院内で自分が経験した動物の疾病の事例、人獣共通感染症について紹介する。獣医師の立場から公衆衛生上問題となる疾病に関して詳しく説明したい。
到達目標	1.豊かな教養と倫理観を身につける。動物における疾病の基礎概念を修得し、疾病について理論的に分析、説明する力と、応用分野である動物保健衛生学や公衆衛生学をより理解し、活用ならびに考察するために必要な分析力を身につけることができる。 2.ヒトと動物の共生をかかげるアニマルサイエンス学科のCP、DPには学問上賛同できない部分がある。新型コロナウイルスは人獣共通感染症である。ところが防疫ができていない。ワクチンを接種しても49%ものヒトが感染した。動物への防疫は皆無である。防疫ができていない疾病を安全であるとはいえない。学生には共生の難しさを理解してもらいたい。 3.国際的視野を広げ、世界中にある様々な疾病について防疫の大切さを理解してもらいたい。疾病に関する心構えができ、社会貢献できるようになってもらいたい。疾病の概念を理解でき、個々の人獣感染症共通感染症について説明できるようになる。人獣共通感染症のバイオハザード、人獣共通感染症のバイオセーフティー、人獣共通感染症の感染ルート的重要性たる3つを述べるができる。 4.人獣共通感染症の理解を深め、基礎科目の動物病原微生物学、応用科目の動物保健衛生学ならびに動物検体検査学、専門科目の動物疾病学を共に修得することが大切である。これにより、人と動物が共生できる社会を構築しうる人材育成ができる。 5.専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。ディスカッションの時間や発表の時間を設けたい。 6.学科の卒業要件単位以上を修得し、卒業研究の研究をしっかりと完成させ、学士(理学)の学位を授与する。
計画・内容	1) 疾病とはなにか 2) 感染症の診断 3) ウイルスの感染症 4) 細菌・真菌・リケッチアなどの感染症 5) 人と動物の共通感染症 6) 感染症の化学療法ならびにワクチン 7) 飼育環境と感染症、造血系ならびにリンパの疾病 8) 呼吸器疾と病因ならびに感染症

2023年度

<p>計画・内容</p>	<p>9)循環障害、循環器疾患の疾病と病因ならびに感染症</p> <p>10)消化器疾患の疾病、腹腔の疾病と病因ならびに感染症</p> <p>11)肝臓、脾臓、膵臓、生殖器の疾患と病因ならびに感染症腫瘍性疾患</p> <p>12)学生による課題発表</p> <p>13)泌尿器疾患と病因ならびに感染症ならびに皮膚、筋肉、神経系、眼科、細胞障害と細胞死（アポトーシス）ならびに炎症、免疫疾患等</p> <p>14)エキゾチック、大動物、実験動物、野生動物、魚類の感染症等</p> <p>15)総括</p> <p>経験：獣医師として、動物病院を開業していた者として、特に犬猫の疾病のついて詳しく教えたい。</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>講義は、パワーポイントを使用して授業を進める。また、参考書およびプリントを用いる。現実の症例をできるだけ多く紹介して理解を深める。1時限を使い学生に課題発表をさせる。授業を履修するにあたって、授業時間外に予習ならびに復習をする。予習復習はノートを作ること。ネットに頼らず参考書等で調べること。調べた内容は必ずノートに記すること。</p> <p>予習：予習時間は各項目を最低20分とする（合計30時間）：1) 疾病とはなにか調べましょう。2) 感染症の診断方法には、どのようなものが存在するか調べましょう。3) ウイルスの感染症にはどのようなものがあるか調べましょう。4) 細菌・真菌・リケッチアなどの感染症にはどのようなものがあるか調べましょう。5) 人と動物の共通感染症にはどのようなものがあるか調べましょう。6) 感染症の化学療法ならびにワクチンはどのようなものが調べましょう。7) 飼育環境と感染症、造血系ならびにリンパの疾病を調べましょう。8) 呼吸器疾患と病因ならびに感染症にはどのようなものがあるか調べましょう。9) 循環障害、循環器疾患の疾病を調べましょう。10) 食中毒について調べましょう。11) 肝臓、脾臓、膵臓、生殖器の疾患と病因ならびに感染症腫瘍性疾患の疾病について調べましょう。12) 学生による課題発表。13) 泌尿器疾患と病因を調べましょう。14) エキゾチック、大動物、実験動物、野生動物、魚類の感染症等を調べましょう。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>該当しない。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>復習：復習は項目ごとに最低でも20分（合計30時間）行う。 予習・復習の合計を60時間とする。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>参考書： 監訳 並河和彦： 器官系統別犬と猫の感染症マニュアル（インターズー）</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績はレポート（試験様式）（50%）、講義単元ごとのレポート（50%）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえレポート、講義単元ごとのレポートを提出していたとしても成績を不可とする。 ・講義単元ごとのレポートは返還はしないものとする（メールなので手元に残る）。レポート（試験様式）に関しては試験に準ずるので返還は行わないものとする。 ・資料配布に関しては掲示板を確認のこと。授業内容にあった資料を配布する。
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>講義単元ごとのレポートに関しては、別途メールで補足する場合がある。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>キャンパススクエアを参照</p>
<p>留意事項</p>	<p>動物疾病学は動物内科学の、一部であり、専門科目もしくは応用科目に位置づけられており、動物を学ぶものが、疾病を勉強できるいい機会でもあります。動物に触れることが多い学科であるので、他の科目や実習でも病気について知識が活かされると推測される。事前に履修してほしい科目は、基礎科目の動物病原微生物学、応用科目の動物保健衛生学、動物検体検査学である。特に基礎科目である動物病原微生物学の受講は必須であるので必ず履修すること。</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>非対面の場合、できればzoomでの講義を行いたい。zoomでの講義であれば通常の対面講義と同じ進め方をする。もし、何らかの事情でzoomでの講義が行えない場合は課題形式の講義として行う。この場合は項目に準じて課題をだす。</p> <p>非対面で講義の場合、試験が非対面で行うことになった時の成績のつけ方：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績はレポート（試験様式）（50%）、講義単元ごとのレポート（50%）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえレポート、講義単元ごとのレポートを提出していたとしても成績を不可とする。これらはキャンパススクエアの掲示板で指示をしてメールで提出とする。 ・講義単元ごとのレポートは返還はしないものとする（メールなので手元に残る）。レポート（試験様式）に関しては試験に準ずるので返還は行わないものとする。

2023年度

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	・資料配布に関しては掲示板を確認のこと。授業内容にあった資料を配布する。
------------------------------------	--------------------------------------